

市政ニュース

百合地区の人工巣塔で育った放鳥コウノトリのヒナ 今年も感動の巣立ち!!

6月4日午前9時35分、百合地区の人工巣塔から、放鳥コウノトリのヒナ1羽が巣立ちました。

3月22日に誕生が確認されてから75日目。親鳥とほぼ同じ大きさに育ったヒナは、約2週間前からジャンプや羽ばたきの練習を続けていました。この日、座っていた姿勢から突然立ち上がり、豊岡の上空に力強く舞い上がりました。



大きく翼を広げて飛び立つヒナ (写真提供:県立コウノトリの郷公園)

誕生したヒナの巣立ちは、昨年の7月31日に続き2例目。また、同じ巣塔のもう1羽のヒナも6月10日に巣立ちました。2羽とも昨年に引き続き、なぜか『大安吉日』の巣立ちとなりました。



練習をするコウノトリのヒナ (写真提供:県立コウノトリの郷公園)

この巣立ちに際し、中貝市長は「新しい命の羽ばたきを歓迎します。懸命に生きようとする命、懸命に守ろうとする命、コウノトリの親子に心からのエールを送ります。しっかりと生き抜いていくことを祈ります」と激励しました。他にも市内各所の野外で6羽のヒナが成長を続けています。今後、巣立ちラッシュでしばらくはにぎやかな日々が続きます。

第1回事務事業評価委員会を開催 学識者や市民らが市の事務事業を評価

5月28日、市の事務事業を、市の関与の必要性や効率性、廃止影響度などを踏まえ、学識者や市民など6人が評価する「事務事業評価委員会」の第1回目を開催しました。市にとって初めての試みである事務事業評価について、第三者の視点を取り入れ、評価の客観性および透明性の向上を図るため、この委員会を設置したものです。

委員会では、市の事務事業約1,800の中から、規模や内容によりあらかじめ事務局が絞った30事業を、4日間で評価します。担当課の説明、質疑応答の

後、事業の改善の必要性をA、Dの4段階で、委員が一斉に札を上げる方法で評価しました。7月2日には、取りまとめのための最後の委員会を開催することとしています。



分りやすく札を上げて評価する委員たち

「豊岡市観光ガイドマップ」と観光案内板が完成 観光の道しるべとしての活躍に期待

市内の主要観光施設やランドマークを掲載した「豊岡市観光ガイドマップ」が、このほど完成しました。このガイドマップは、観光施設をジャンル別に分類し、施設間の距離や所要時間、施設の問合せ先などを掲載しています。希望の方には、無料で配布

します。観光課または各総合支所地域整備課にお越しください。また、「道の駅 神鍋高原」と「但東シルク温泉館」の駐車場に観光案内板を新設しました。観光ガイドマップと併せて、観光の道しるべとして活用ください。

主な市政の動き

- 【5月】
 - 20日・生きもの共生の日
 - ・酒米フクノハナお田植式
 - 22日・コウノトリシンポジウム
 - 23日・G8環境大臣会合エクスカーション
 - 28日・市民と市長の座談会 (神美地区公民館)
 - 29日・市民と市長の座談会 (中筋地区公民館)
 - 30日・市民と市長の座談会 (二江地区公民館)
 - 31日・広域ごみ・汚泥処理施設事業概要等市民説明会(竹野南地区公民館)
 - ・豊岡市震災総合防災訓練
- 【6月】
 - 1日・市民と市長の座談会 (港地区公民館)
 - ・広域ごみ・汚泥処理施設事業概要等市民説明会(中竹野地区公民館)
 - 7日・植村直己冒険賞授賞式・記念講演会
 - 8日・市民と市長の座談会 (新田地区公民館)
 - ・広域ごみ・汚泥処理施設事業概要等市民説明会(竹野地区公民館)
 - 13日・市民と市長の座談会 (奈佐地区公民館)
 - 14日・救急医療シンポジウム
 - 15日・市民と市長の座談会 (豊岡地区公民館)

新キャラクターの「着ぐるみ」が登場！ 「コウノトリ」と「オオサンショウウオ」をキュートに表現

豊岡市のPRに一役買う新キャラクターの「着ぐるみ」が完成し、5月19日、お披露目を行いました。

市における「豊かな自然」と「生物多様性」の2大シンボル「コウノトリ」と「オオサンショウウオ」をかわいらしく表現したもので、市職員がデザインしました。

お披露目式で中貝市長は「期待以上の出来栄で、満足しています。子どもたちの人気者になるのでは」と話しました。

今後、環境学習などをはじめ、さまざまなイベントに登場して普及啓発に励みます。皆さん、応援してください！



愛きょうを振りまく着ぐるみ

採血用穿刺器具の使用について

検査に心当たりのある方は申し出ください

平成10年ごろから平成20年5月28日までの間、市立国民健康保険済母診療所の糖尿病治療で、採血する際に、針は1人ずつ交換していましたが、採血器具で皮膚に触れる部分は消毒して複数の人に使用してました。このような使用は、肝炎など感染症の可能性があるため、平成18年3月に国から禁止の通達が出ています。

お披露目式で中貝市長は「期待以上の出来栄で、満足しています。子どもたちの人気者になるのでは」と話しました。

この間の該当の方にも個別に説明し、肝炎検査等の対応を行っています。

通達後も誤った使い方をしていた原因は、器具の取扱説明書をよく読んでいなかったことや通達が診療所に届かなかったこと、納入業者の説明

を信じてしまったことなどによるものです。市民の皆様には不安と心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。

この間の該当の方にも個別に説明し、肝炎検査等の対応を行っています。

豊岡市保健センターで平成14年7月から平成16年3月までの間に実施した糖尿病予防の運動教室や、平成10年度ごろから平成17年度までの間に日

また、通達が出る前ですが、豊岡市保健センターで平成14年7月から平成16年3月までの間に実施した糖尿病予防の運動教室や、平成10年度ごろから平成17年度までの間に日

健康増進課 ☎24・1127
・日高総合支所健康福祉課 ☎21・9055

中貝市長の徒然日記 ⑩

ふるさとも見つめる

但東中学校の生徒が、こんな作文を書いていました。修学旅行で東京に行った。雑誌やテレビで見てもあこがれていたものが大量にあった。但東には足りないものばかり。でも、但東にあつて東京にはないものに気が付いた。美しい星空、静かな町、おいしい空気。私は但東の良さを大切にしようと思う。

わね。神戸にあつて豊岡にないものって何かしらね。長男は2年生の時、私の都合で無理やり豊岡に転校させられていました。長男が答えます。「うーん、電車が無い。デパートがない。あ、遊園地もない」「じゃあ、それを書いたら？」

同感です。但馬の祭典が近づいたころのことです。妻が当時小学校4年生の長男の部屋に行くと、長男が涙をにじませて机に向かっていました。訳を聞くと、「作文の宿題が出た。但馬は過疎化が進んでいる。これまで大人たちが一生懸命対策を考えてきたが、効果が無い。そこで若い人たちの意見を聞くことになつた。大人にも分からんこと、僕に分かるはずがない」と言つたのです。

でも、豊岡にあつて、神戸にないものは？
「コウノトリ！」
「ピンポン！」
「ピンポン！」
「さすが、わが息子である。まちづくりの議論をする、豊岡にないものをどうするか、ということに終始しがちです。もちろん大切な論点です。しかし、もつと大切なことは、いたずらによそをうらやむことではなく、自分たちの足元を見つめることだ、と私は思っています。中学生の作文が、改めてそのことを思い出させてくれました。」

そこで妻は、こんなふうにな水を向けてみました。
「神戸から豊岡に帰ってきた

